



## 文末形式「って」に関する一考察(二〇〇三年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2012-01-27 キーワード: 作成者: 阿部, 孝子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007211">https://doi.org/10.32150/00007211</a>

## 文末形式「って」に関する一考察

日本語学研究室 ○四〇三 阿部 孝子

本研究では発話の文末で使用される「って」の用法を、「って」で引用される部分が他者によってもたらされたものか、自己がもたらしたものを基準に分類し、各用法の意味・機能を分析し考察を行った。

話し手が他者（第三者または聞き手）から得た情報を引用した用法として「伝聞情報の転送用法、伝聞情報の確認用法、詳細引出し用法、真偽問い返し用法、非難用法」、また自己の直前の発話・思考を括りだしたものとや自己の過去の発話・思考を引用した用法として「自己主張用法、否定強調用法、説明提示用法」を示し合計八つの用法に分類した。特に「自己主張用法、否定強調用法」は、「って」で発話全体に客観性を持たせる機能があり、自己発話に説得力をもたせたり否定を強調したりすることが可能になる。総じて、「って」の機能には伝聞、問い返し以外に、相手の気持ちに配慮したり和らげたりする機能があり、それは「って」で言い終わる曖昧さから生じたものであるろう。

また、「って」で言い終わる発話には言いさし機能を持つている可能性があることも示した。言いさしと判断した「伝聞情報」の転送用法、伝聞情報の確認用法、非難用法、説明提示用法には、伝聞要素が強いこと、「って」に後続する主節の解釈が聞き手によって幅が広がることが特徴であることも述べた。